1 学校教育方針

校訓「ゆたかな情操・たゆまぬ研鑽」の精神を基調に、21世紀の日本の担い手としての自覚と、豊かな創造性及び深い人間愛の精神を持ち、自らが主体的に判断し、行動できるころ豊かな人材育成をめざす。

2 重点目標

- (1) ころ豊かな人格の完成をめざし、自主・自立の精神と積極的な実践力を養成する。
- (2) 社会情勢の変化に対応できる基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学ぶ意欲・態度を養成する。
- (3) お互いを思いやり、尊重し、命や人権を大切にす豊かな情操や徳性を育む。
- (4) 新しい時代に即応した青年農業経営者並びに関連産業従事者に必要な広い知識と技術を身につけ、科学的な経営能力を育成する。
- (5) 人と自然の調和をめざした環境づくりに貢献する実践的な態度や能力を育てる。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・各分野について、学校自らが課題を抽出し改善方策等について検討・実施されており、学校関係者へも分かるように資料等を示した上で評価できるよう配慮されている。
 ・多様な学校関係者(生徒、保護者、職員)の学校への評価を総合的に第三者が判断する方法は妥当と思われる。

5 総合的な学校関係者評価

・「全体的にみて、県農に入学して良かったと感じている。」との調査項目で、1年生の約87.8%、2年生の約86.3%、3年生の約88.4%が「あてはまる」、または「ややあてはまる」と回答していることは、とても素晴らしいことであり、教職員の指導と努力の賜物に違いない。
 ・農業分野の設問をさらに1～2題望みたい。例：日常生活において食や農畜産業に関して自ら情報収集を行っている。例：ご家庭で食や農畜産物への関心が生徒・学校からの情報により高まっている。
 ・生徒、保護者、教職員ともほとんどの評価が4点満点で3点以上を記録しており、バランスのとれた学校教育が実践されていると感じる。
 ・新型コロナウイルスの感染症法上の取り扱いが2類から5類に移行されたことに伴い、新たな課題も次々に出てくる多忙なかにあつて、全体として着実な取り組みを進めておられると思う。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C やや改善 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況・改善の方策
1 開かれた学校づくり	・家庭や地域への情報発信 ・学校施設や教育資源の地域への開放 ・PTCAとの連携 ・積極的な学校運営の推進	A	・研究・連携推進部をはじめ各部署、学科、部活動などと連携し、各家庭や地域そして中学生に生徒の活動や県農の取り組みを紹介するためにホームページやオープン・ハイスクール、学習成果発表会等を活用した。 ・学校開放については、本校の行事等との関係から実施が難しい時期も多く、十分実施できていない。教育資源に関して十分な開放は出来ていない反面、地域の園児、児童たちの収穫体験行事や小高・高特連携あるいは地域自治会や教育機関などとの交流や見学依頼を受け入れるように努力している。 ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、広報活動や朝の立番指導などを中心にPTA活動も従来の形に戻ってきた。また講演会や校内の施設の充実等への援助も行っていただいた。 ・ホームページ更新に加え、今年度よりInstagramによる情報発信を行っているが、まだ周知できていない部分もあり、今後の課題である。 ・地域での農産物販売やボランティア清掃等、地域での活動を充実させることができた。
2 生徒指導	・生徒の内面理解を図る指導の工夫 ・生徒の自主自立の精神の育成 ・学校行事の活性化 ・いじめの防止と組織的対応 ・交通安全意識の向上	B	・定期的に面談を実施し、生徒理解に努めている。 ・生徒会が常に生徒の意見を聞ける機会を作っており、生徒が学校のために誇りをもって生活できるように、行事の企画や運営をしている。 ・校内祭、体育大会、生徒指導講演会などコロナウイルス感染拡大前の従来の形で実施できた。 ・年3回の「学校生活に関する調査」の内、2回をGoogleで実施した。その結果、生徒が自分のタイミングで入力することができ、生徒の些細な変化も担任・学年・生徒指導担当が把握できた。 ・年数回のPTAとの合同登校指導ではスマートフォンの使用やイヤホンの着用を指摘いただき、生徒に全校集会等で安全対策や交通マナーについて継続的に指導している。
3 教育課程	・体験的・問題解決的な学習の推進 ・専門教育の充実 ・情報活用能力の育成 ・指導方法と評価方法の工夫	B	・新教育課程に対応するため、教育課程及び評価方法等の教務規定の見直しを行った。 ・農業に関する専門教科を中心に、さまざまな体験学習や「課題研究」を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に注力した。 ・「課題研究」では、生徒が課題を発見し、その課題を研究することにより、課題の解決に向けて取り組む力を育成した。 ・Office365やGoogle ClassroomなどICTを活用した共同学習、遠隔交流、課題、連絡、アンケート等を実施し、生徒の学習の深化と情報活用能力の向上に取り組んだ。
4 進路指導	・主体的な進路選択への支援 ・職業観・勤労観の育成と進路意識の向上 ・キャリアプランニング能力の向上	A	・計画的に進路ホームルーム、進路面談を実施し、自らの意思と責任で主体的に進路を選択し、決定できる能力や態度の育成に努めた。 ・「卒業生によるキャリアガイダンス(2年生対象)」と「3年生によるキャリアダイガンス(1年生対象)」を実施し、社会人・職業人として必要な能力の育成に努めた。 ・Google Classroomを用いた求人票のデジタル化を今年初めて実施し、生徒・保護者への情報提供効率化を図った。増え続ける求人票に対する業務支援をより考えていく必要がある。
5 学校の個性化・多様化	・地域連携教育の推進 ・職業体験学習の推進 ・他校種連携の推進 ・農業従事者及びスペシャリストの育成 ・他国の歴史や文化及び農業の理解	A	・新たな募集方法にてインターンシップの新規実習先の開拓に努め、51社114名のインターンシップ参加を行うことができた。レポートやプレゼンテーション、礼状などの作成を通して、健全な労働観や社会性の育成に取り組んだ。 ・農産物の地域販売・出荷、農商連携など地域活動に意欲的に取り組み、生徒の学びを深めるとともに地域貢献を果たした。 ・特別非常勤講師を活用し優れた知識・技能を有する社会人の方を招き、より深い技術を習得することができた。 ・国際交流の一環としてニュージーランドから高校生をホームステイとして受け入れ、本校生徒の国際感覚の啓発に努めた。
6 危機管理体制の整備	・家庭・地域・関係機関と連携した危機管理 ・教職員の実践的な研修 ・教職員の防災教育に係る指導力実践力の向上 ・農場の安全管理の徹底	B	・学校施設が地域の防災拠点であることを認識し、本校周辺自治会との懇談会を実施し、お互いの立場と問題点を共有した。今後、懇談会で出された課題を加古川市危機管理室と協議する予定である。 ・防災避難訓練を実施する前に研修会を開き本校の防災マニュアルの内容と各自の役割を確認した。また訓練の内容や流れを周知し生徒等への声掛けの意義等についても確認を行い各職員が実践力を高められるよう工夫した。 ・農場での安全管理の徹底に向けてリスクマネジメントについて話し合う機会を設けた。また、校内の危険な通路の補修など実習をとおして行った。 ・職員を対象に「校内ヒヤリハット」調査を実施して、職務中の事故や事故につながる恐れのある事象について調査を行い、事故の未然防止につなげる方策を立てた。
7 人権教育の推進	・人権尊重の精神の涵養 ・組織的な取組 ・インターネットによる人権侵害の予防 ・教職員の指導力向上	B	・各学年の年間計画に基づいた人権ホームルームを通して、人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、共生社会の実現に向け主体的に取り組む実践力の育成を図った。 ・ヤングケアラー等比較的新しい人権問題やインターネットによる人権侵害など、職員研修を経て各ホームルームで授業を実施することにより、教職員の人権意識や指導力の高揚を図った。 ・日常的に動植物を育てることで命の大切さを学び、地域社会との交流、他校種との交流など多くの体験から人権に関する諸問題への気づきの機会を多く獲た。
8 教職員の資質向上	・実践的指導力の向上 ・社会の変化に対応した教育観の育成 ・魅力ある授業の実践 ・服務規律の遵守 ・働きやすい職場環境づくりを進める	B	・県立教育研修所の情報教育研修課から講師を招聘し、職員対象のICT活用研修を開催することにより、授業ですぐに役立つスキルを身に付けた。 ・年間2回の授業公開週間を実施し、教員各自の実践的指導力の向上や評価の改善につなげた。 ・専門教育の更なる深化に向けて、最新の知識や技術の収集に努めるとともに、学科間、教職員間の共有化を図った。 ・特別支援学校から外部講師を招聘して特別な支援が必要な生徒に関する職員研修会を行い、生徒への適切な声かけなど傾聴姿勢を持って指導にあたることを確認し、生徒支援を行った。 ・服務規律の遵守について、研修等により共有し注意し合うとともに、教職員としての誇りと責任を自覚して自己の行動を律するよう促した。 ・定時退勤日・ノー部活デー・ノー会議デーの実施、学校閉庁日の設定等を通じて、教職員が心身ともに健康で、生徒と向き合う時間の確保に努めた。

6 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
・どんなことでも報告してくれる子どももいれば、学校での生活をまったく話さない子どももいる。そのため、先生方にはお手数をおかけするが、通信等とともにラインネットでの通知も引き続きお願いしたい。 ・東播磨県民局、JA兵庫西などと連携した地域特産の6条大麦振興の取り組みでは、大きな力添えをいただき、感謝している。新聞掲載等によるPRも効果的に行われている。12月18日には生産者・実需者らとの実績報告会で、生徒自ら発表いただき、生産者の意欲向上に大きく貢献していただいた。 ・新聞紙上等で県農の取り組みの内容が掲載されることが多く、学校評議員として県農がとても身近に感じることができるようになった。
・生徒指導の面では、カウンセリング研修等を行い、個別面談や面談習慣を設けて生徒の内面理解を図るなど、指導の工夫に取り組んでいる。 ・生徒自身は、集団生活の基本となるルールやマナーの遵守に努めているものの「農業クラブ」、「部活動」や授業・試験勉強には前向きに取り組めていない様子がうかがえる。 ・生徒が情報モラルを守っているという評価は、素晴らしいのでこのまま継続してもらいたい。 ・いじめの防止について、他校とは違い、3年間ともに過ごすことで、子供同士が深く関わり、理解しあえる利点があるが、一度関係が崩れると辛い毎日になってしまうので、引き続き面談やアンケートを定期的に行っていたきたい。
・学習面では、引き続き個の学習目標を明確にした授業やシラバスの充実など、多様化する生徒や社会情勢の変化に応じた取り組みが期待される。 ・どの学年も「定期考査の試験勉強をせすに」というのが回答が多く、何か対策があれば良いのと感じる。
・卒業後の進路において、進学が増加傾向であることがよく理解できた。また、公務員試験合格者を多く出していることは素晴らしいと思う。
・農業関係の施設・設備が整い、学習成果発表会や体育大会などは県農の誇れる行事であり、保護者は全体的に県農に入学させて良かったと評価している。一方で、さらなる教職員と生徒のコミュニケーションを通じた生徒指導・進路指導や学校生活の充実とともに、保護者等との情報共有や連携・協力による教育活動の充実を期待する。 ・調査項目「地域連携教育」の評価が高く、教職員の熱心な取り組みにつながっていることがわかる。
・いじめ対策を実施していることをもってPRする必要がある。教員と生徒・保護者との間に認識の差があるように感じる。 ・感染症対策については、新型コロナウイルスが5類に移行されて少し緊張感が薄れてきているように感じる。
・人権教育については、情報社会の急速な発展に伴い、多様性が進み、ますます複雑化してきている。流れてくる情報が正しいのか、間違っているのかをしっかりと見極めるスキルと合わせて、自分の行動や言動には必ず責任が伴うことを社会に出る前にしっかり身に付けさせていきたい。
・評価項目「環境教育の推進」に関して、取り組みが少ないと回答した職員があり、当事項に関する取り組みが、今後望まれる。農業でも国策で脱炭素、生物多様性の取り組みが進められている。 ・県農が子供たちにとって充実した学びの場となるためには、教職員の方の心身が健康であることが一番と思う。子ども達のためにも心身を大切にしていきたい。そして、継続して子ども達が意欲的に学べる環境づくりをお願いしたい。 ・子ども達の学習及び生活面において実態をよく理解して指導いただいていると思う。(生徒・保護者とも評価は高くないが。)